令和元年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議

（兼第２回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議）報告書

１　会議名

令和元年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議

（兼北海道青少年科学館連絡協議会　第２回館長会議）

２　日時・場所

⑴　日時

令和元年 10 月 17 日（木）～18 日（金）

⑵　場所

苫小牧市科学センター　第 3 実験室（苫小牧市旭町 3 丁目 1 番 12 号）

３　参加者

出席状況：連携協加盟 16 館中 12 館 13 名（別紙参加者名簿のとおり）

４　会議概要

⑴　10 月 17 日（木）

14：45～15：00　受付

15：00～15：05　開催地あいさつ　　苫小牧市教育委員会教育部 部長　瀬能　仁

代表幹事あいさつ　札幌市青少年科学館 館長 木村　義広

15：05～17：00　議事

①　報告事項

・令和元年度 4 月～8 月の運営状況及び情報提供

・全国科学館連携協議会幹事会・総会の報告

・その他の報告事項

②　協議事項

17:10　会議閉会

⑵　会議内容

【各館の報告要旨】

ゴールデンウィーク及び夏休み期間の来場者数や主な事業など、館の運営状況について各館から報告を行い、意見交換を行った。施設の多くが庁舎及び展示物の老朽化と予算の縮小に悩んでいるため活発な情報交換が行われた。

≪ゴールデンウィーク及び夏休み期間の来場者数について≫

好天が続いたため屋外施設に集客が流れ、道内科学館全体で来場者は減少傾向。

旭川市、帯広市ではプラネタリウムに子どもに人気のあるアニメの新作番組を入れたことで来場者が増加したという報告があった。

≪展示物、庁舎の老朽化について≫

開館からかなりの時間が経過した館が多く、庁舎及び展示物の老朽化・更新に関する報告が多数挙げられた。予算の縮小で十分な修繕・設備更新を行えない館も多く、非常に苦しい状況であることを確認した。

また、指定管理者制度を導入している館では、設備更新の予算が付いた分、収入増へのプ

レッシャーが強まったとする声もあった。

【協議事項】各館から出された協議題について意見交換をした

① ダムカードの科学館版の制作について

全国のさまざまなダムをめぐって集めるダムカードが人気なので、道科協加盟館で科学館カードを作ると施設をめぐる人が増えるのではないかという意見が出された。今後、検討を行うこととした。

② プログラミング教育の現状と課題について

指導要領が変わって小学校でプログラミングを指導することになったが、各地域ではどのように取り組んでいるのかを意見交換したいと提案があった。道科協メーリングリストなどで各館の状況を報告しあうことを確認した。

③ 各自治体の SDG への対応について。

SDG s の様々な支援制度、自治体での対応について意見交換を行った。

5 施設見学

行程（10 月 18 日（金）9 時 15 分から 12 時まで）

⑴ 「CCS プラント」

工場から出る二酸化炭素を回収し地下深くの地層に埋める「CSS プラント」の実証試験センターを見学した。CSS プラントの諸外国での取り組み状況と日本ならではの最新技術の説明を聞き、設備の見学を行った。

⑵「北海道石油共同備蓄㈱」

非常時における日本の石油備蓄計画について説明を受けるとともに、備蓄タンクの見学をおこなった。大量の石油を保管するための安全管理や巨大タンクのメンテナンスなど備蓄基地の取り組みを学んだ。

6 会議風景等の写真

別添のとおり

会議の様子

会場全体（苫小牧市科学センター　実験室）

木村会長の挨拶

視察①　CSS プラント

二酸化炭素吸収塔を仰ぎ見る

二酸化炭素に圧力をかけて土中に送る装置

視察②　石油備蓄基地

日本の石油備蓄の必要性について説明を受ける

大量に並ぶ巨大タンクを視察